

# Focus! サステナビリティ経営を実践する従業員たち

注目のトピックスや事業について、インタビュー形式でお届けします。

## 2025年度



### ニッセイがん啓発プロジェクト

地域のお役に立つために



### 責任投融資 テーマ投融資の取組事例

「ニッセイ・サステナブルファイナンス」の取り扱いを通じた貢献



## 2024年度

- ＞ がん検診受診勧奨活動『地域の皆様に安心をお届けし、健康をお守りする』
- ＞ 責任投融資『サステナビリティ・アウトカムの創出を志向する責任投融資を目指す』
- ＞ ちょこいく『社内起業プロジェクト発「ちょこいく」を通じた社会課題解決』

# Focus!ニッセイがん啓発プロジェクト

---

## 地域のお役に立つために

---

当社では、全国の自治体と包括連携協定等を締結し、各支社において地域・社会の課題に応じたさまざまな取り組みを進めています。2025年度から「ニッセイがん啓発プロジェクト」をスタートし、従来の「がん検診受診勧奨活動」から「がん啓発活動」へと取り組みを進化させています。さらに、各種団体への協賛・参画やセミナー・イベントの開催等により、がんに関する知識の普及とがん予防・がん検診への行動変容を、地域全体へ広げていく活動を実施しています。岐阜県との包括連携協定を踏まえた取り組みについて、岐阜支社の職員や岐阜県庁の方に話を聞きました。



岐阜県庁のご担当者様と日本生命岐阜支社職員

## 県と協働で取り組む「がん啓発活動」

Q. 岐阜支社で実施している「がん啓発活動」の取り組みを教えてください。



岐阜支社 支社市場振興課長  
長屋 絹枝

長屋

岐阜支社では、営業職員が地域のお客様に対してアンケートの収集と丁寧な情報提供を行い、岐阜県庁と連携して、県内のがん検診受診率の向上に取り組んでいます。その取り組みの1つとして、県庁が実施する乳がん検診受診の啓発活動に協力し、大型ショッピングセンターに出動するピンクリボンバスでの乳がん検診受診勧奨を実施しました。

これらの取り組みの結果、県内で2023年度・2024年度連続でアンケートにご回答いただいた2,055名のうち、2023年度にがん検診「受診なし」だった936名の約4人に1人（244名）が「受診あり」へ変化しました。

上記に加え、県庁・県医師会と私たち岐阜支社が協働してさらに何ができるかを検討し、子宮頸がんなどの原因となりうるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を予防する「キャッチアップ接種」のご案内も実施しました。

このキャッチアップ接種は、過去にワクチンの積極的な接種勧奨が差し控えられたことによって接種機会を逃した方を対象に、2022年度から2024年度までの期間中に改めて公費での接種機会が提供されたものです。

県内でアンケートを実施した1.4万名のうち、接種対象者(1997年度～2007年度生まれの女性)およびそのご家族の方へ、当制度のリーフレットをご案内し、ワクチンを「そもそも知らなかった」から「接種できた」へとつなげる活動に、岐阜支社全営業職員で取り組みました。

お客様からは「普通に過ごしていたら知ることなかったが、案内をしてもらったことで、自分が接種していないことも知れたし、無料で接種できた。こういった取り組みを継続してほしい。」との声を頂き、地域に根ざしたがん啓発活動の意義を改めて実感しています。



キャッチアップ接種ご案内の様子



## 地域のお客様のがん検診の受診率向上に向けて

### Q. がん検診をご案内するにあたり、工夫されている点やお客様からの声をお聞かせください



大垣営業部  
出井 尚美

出井  
お客様一人ひとりの健康を守るために、対話を大切にしながらご案内を心がけています。  
がん検診に関するアンケートの回答内容を必ず確認し、たとえば、「必要性を感じないから受診していない。」という方には、がんは誰にでも起こりうる病気であること、そして早期発見の重要性を、丁寧に根気強くお伝えしています。  
また、「費用がかかるから受診していない。」という方には、岐阜市が発行している検診クーポンなど、費用負担を軽減する方法をご紹介します、少しでも受診のハードルを下げられるよう工夫しています。  
さらに、お客様のライフスタイルや価値観に寄り添いながら、「自分ごと」としてがん検診を考えていただけるよう、言葉の選び方やタイミングにも配慮しています。  
活動を通じてお客様から「がん検診受けたよ。」と報告いただいた時は、ご案内して本当に良かったと感じます。  
また、「話を聞いて初めて検診の大切さに気づいた。」「家族にも勧めてみようと思った。」といった声もあり、お客様の行動の変化が、地域全体の健康づくりにつながっていることを実感しています。

### Q. どのような想いで「がん啓発」に取り組まれていますか？

出井  
がんの啓発を含む地域振興の取り組みは、私たちが生命保険の営業に携わるうえで、お客様の人生に寄り添うための大前提だと考えています。  
がん検診を受けることで、「がんが見つからなくてよかった。」と安心できる方もいれば、「がんが見つかったけれど、早期発見だったから治療に前向きになれた。」という方もいらっしゃいます。  
この活動を通じて、大切なお客様に安心を届け、人生を守るお手伝いができる。そんな想いを胸に日々取り組んでいます。  
HPVワクチンのキャッチアップ接種についてご案内した際には、「この情報がなければ、接種のことを知らずに終わっていたかもしれません。教えてくれて本当にありがとう。」というお声を頂いたこともありました。こうした言葉から、正しい情報を届けることの責任と価値を改めて実感しています。  
がん検診やワクチン接種といった予防の取り組みを通じて、お客様が自分自身の健康と向き合うきっかけをつくることも、私たちの役割のひとつです。これからも、地域に根ざした活動を継続し、安心と信頼をお届けしていきたいと考えています。

Q. 日本生命の「がん啓発活動」について、どのように受け止められていますか？



岐阜県健康福祉部長  
丹藤 昌治 様

2024年度、県内の約1.4万名の方を対象に実施いただいた「がん検診に関するアンケート」は、「性別・年代別がん検診受診率」、「受診したがん検診の種類」や、がん検診への意識まで調査されており、大変興味深い結果でした。県のがん検診受診率向上対策や環境整備の取り組みにおいて参考になると感じています。

私自身、5年前にステージ4のがんと診断され、治療を受けた経験があります。その経験から、がんに関する正しい情報提供や啓発活動の重要性を強く実感しています。

日本生命にも、引き続き、県民一人おひとりが正しい情報を得て、がん検診を受けるきっかけとなるような普及啓発活動へのご協力をお願いしたいと思います。



**大切なお知らせ！**

子宮頸がん予防ワクチン  
の予防接種について、  
いよいよ女の子の命を救うために

**1997・2007年誕生まわりの  
女の子は受だけ無料！**

- ①接種券を手取り。  
保健所または自治体でも発行できます。
- ②子宮頸がんを怖ろず。  
子宮頸がんは、HPV感染が原因です。  
年間約1000人が30歳までに子宮癌になり、  
2000人以上が死亡しています。
- ③HPVワクチンを知らず。  
がん予防効果は低いです。  
副作用と合わせていた毒も子宮頸がんの原因となる  
ものが多いことが最近の研究で明らかになりました。
- ④安心の診療体制に任せよう。  
接種後のはきは専門医療機関が  
迅速に対応してくれます。
- ⑤2024年9月30日までに1回目を行うと。  
ファイナルブーストが2回目。本人の19万円よりずっと。

大切なお知らせです。

メーカー・メーカー。こちらからかえり。



このままだと6,620人\*が  
子宮癌がんで死んじゃう！

## SAVE ♥ WOMB

**10/1以降は標準10万円、  
マジで自費になっちゃうよ！**

子宮頸がん予防ワクチンで、いよいよ女の子の命を守ろう。 **今だけ無料**

**1997・2007年誕生生まれの女の子は**

\*「1997・2007年誕生」は、1997年10月1日以降に生まれた女性、2007年10月1日以降に生まれた女性を指します。ただし、2007年10月1日以前に生まれた女性でも、2007年10月1日以後に出生届を提出した場合は対象となります。

キャッチアップ接種のご案内チラシ

※ 当インタビューは2025年7月末時点のものです

＞ ニッセイがん啓発プロジェクトの詳細はこちら

## Focus! 責任投融資 テーマ投融資の取組事例

### 「ニッセイ・サステナブルファイナンス」の取り扱いを通じた貢献

当社は機関投資家として、契約者利益の拡大と社会課題解決への貢献の両立を目指す、責任投融資に取り組んでいます。本ページでは、資金提供を通じてサステナビリティに貢献する「テーマ投融資」の事例の中で、「ニッセイ・サステナブルファイナンス」という、企業等への融資取組について紹介します。



財務第三部 財務担当課長 伊東 苑子（中央）  
財務企画部 責任投融資推進室 荻原 美礼（左）  
財務企画部 責任投融資推進室 堀江 浩仁朗（右）

### 「責任投融資」とは？

堀江

当社は生命保険会社として、保険金や給付金、契約者への配当支払いといった経済的な保障責任を全うすべく、お客様からお預かりした保険料を債券・株式等へ投資することで資産運用しています。また、各地域の不動産投資や、法人のお客様への企業融資の取引も行うことで、地域経済の発展にも寄与できるよう、取り組んでいます。

こうした投融資の活動において、地球環境問題をはじめとしたさまざまな社会課題の解決にも貢献する当社の取り組みを、「責任投融資」と呼んでいます。

これは、まさに当社が目指す『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現に向けた取り組みであり、資産運用の面から、機関投資家として社会のサステナビリティに貢献していくものです。

また、人々や企業等の経済活動の基盤である地球や社会の課題を解決することは、資産運用の中長期的なリスク・リターンの視点で、お客様の利益拡大につながると考えています。



## ニッセイ・サステナブルファイナンス

---

荻原

責任投融資の取り組みの中で、資金提供を通じてサステナビリティに貢献する「テーマ投融資」の事例の一つである、「ニッセイ・サステナブルファイナンス」について紹介します。これは、当社が提供するサステナビリティ関連融資の総称であり、「ニッセイ・グリーンローン」「ニッセイ・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」「ニッセイ・サステナビリティ・リンク・ローン」の三つで構成されています。

「ニッセイ・グリーンローン」は、再生可能エネルギーやグリーンビルディング等、地球環境の改善効果が認められるようなグリーンプロジェクトへの融資です。

「ニッセイ・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」では、企業の事業活動が環境・社会・経済にもたらすインパクトを特定し、KPIを設定して融資を実施しています。

「ニッセイ・サステナビリティ・リンク・ローン」では、企業のサステナビリティ目標の達成状況に応じた金利変動等の条件を設定することで、企業のサステナブルな経済活動と成長を促進し支援することを目指しています。



## ニッセイ・サステナビリティ・リンク・ローンの取り扱い

---

伊東

私は法人のお客様への融資のご提案を担当しており、日々の担当企業との対話を通じて、地球環境保全等の社会課題解決を企業のマテリアリティ(重要課題)と位置付け、意識高く取り組む企業が増えていると感じています。私は融資営業担当者として、「ニッセイ・サステナブルファイナンス」は、まさにそのニーズに応えるソリューションの一つであると自覚しています。

こうした担当企業の一社に、鉄道等の交通インフラを支えるシステム・機器の製造メーカーである株式会社京三製作所様があり、先方の長期資金のご調達に際して、「ニッセイ・サステナビリティ・リンク・ローン」を、当社幹事のシンジケートローン\*としてご採用いただきました。



\* 複数の金融機関が協調して融資を行う形態のこと

## 顧客企業のサステナビリティ目標を議論を重ねて設定

---

伊東

ニッセイ・サステナビリティ・リンク・ローンが、資金用途を限定せずに、企業のサステナビリティ目標の進捗に連動して金利が変動するインセンティブの仕組みになっている点や、サステナブルファイナンスの外部評価機関への手数料が不要であることを気に入っていただき、前向きに検討していただきました。

検討過程での最大の課題は、企業のサステナビリティ目標であるKPIの設定でした。先方企業・業界にとって、どのようなものが適切かつ野心的な目標であるのか、経営課題を共有したうえでお客様と一丸となって議論を進め、当社の商品開発メンバーも巻き込みながら、先方企業との対話を何度も重ねました。

最終的には、CO<sub>2</sub>排出量や男性従業員の育児休業取得率といった「脱炭素社会への貢献」「人的資本の充実」という観点でのKPIを設定することができました。



## 融資を通じた、サステナビリティ・社会課題解決への貢献

---

伊東

私は個人のお客様への保険のご提案を担当していた経験もあり、お預かりする保険料の大切さをよく理解しています。お預かりした大切な保険料が、「ニッセイ・サステナブルファイナンス」を通じて、企業の脱炭素化等のサステナビリティ取組に貢献し、将来、お客様やそのご家族が暮らしている社会、さらにはその先の未来につながると思うと、大変意義深い取り組みだと感じ、融資担当者としてやりがいを感じています。今後も多くのお客様のニーズに合った、人々が安心して暮らせるサステナブルな社会の実現に役立つファイナンスを提案できるよう、取り組んでいきたいと考えています。

※ 当インタビューは2025年7月末時点のものです

[責任投融資の詳細はこちら](#)